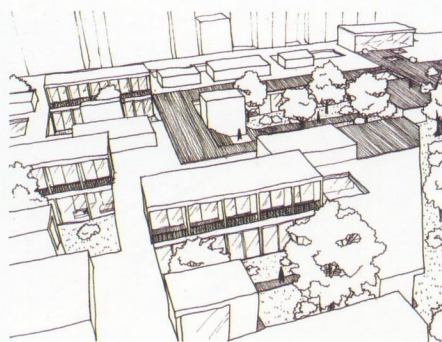
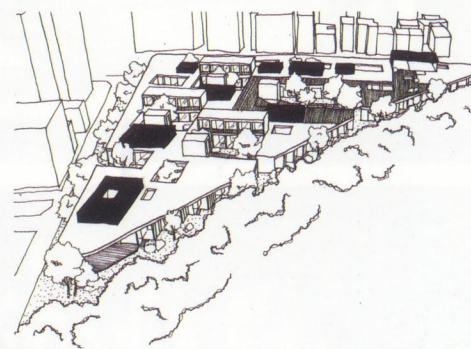
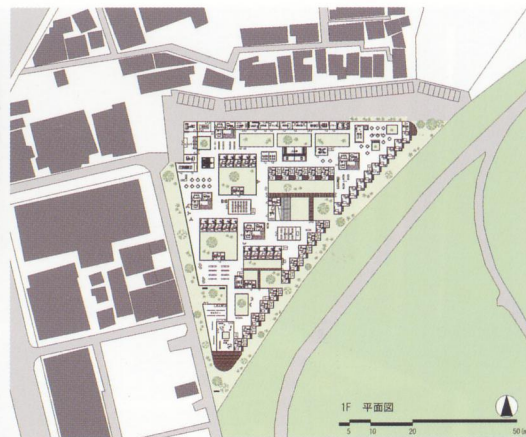




トシピス

小倉美貴子 (おぐらみきこ)

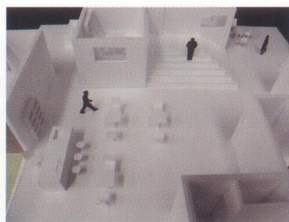
東京電機大学 工学部建築学科



ホスピスの現状、それは「死に行く場所」なのだそうだ。「最期の一瞬まで自分らしく過ごす」この本来の意味を反映させた施設を提案したい、そう考えてこの計画に取り込むことにした。

ホスピスに入所を希望した人たちは、寝たきりの病人ではない。自分の意思で目的を決め、行動する、そんな生活を望んでいる。いえを出て、自分の行きたいところを選択しやりたいことをする、そんないえとまちの関係を施設全体のコンセプトとした。

医療単位を10床一単位と設定して医療ブースを配置したり、全個室完全南向きで庭付きという条件にし、普段の生活をより快適にしている。



【講評】 聞き取り・文献調査により、ホスピスは死にゆく間際まで自分らしく過ごせる場でありたいと考え、施設全体を「いえ」と「まち」の関係で構築している。大きな三角形平面に個室、共用室、医療ブースの三要素を点在させ、中庭も入れ込んで、余白となる廊下、ラウンジに行き止まりのない豊かな空間性を持たせることに成功している。さらに全体を大きな「いえ」と見立て、唯一接道する西側にもう少し「本当のまち」に触れられる仕組みがあれば、より多様な選択肢をもつ「トシピス」になったと思う。なお、どのような建築でも調査、研究に裏付けられた計画的アプローチは建設目的を満足する上で欠かせないので、今回の設計態度をぜひ継続して欲しい。

【審査員：柳瀬寛夫】